

【解答例】

I

<問1> (ア)～(オ)に適切な前置詞を入れなさい。(15点 各3点)

(ア) from (イ) over/against (ウ) for/to (エ) from (オ) against

<問2> (あ)～(お)に入る動詞(句)を下から選びなさい(必要ならば語形変化させなさい)。

(20点 各4点 正解4点 変化ミス2点 不正解0点)

(あ) following (い) coming up (う) export (え) explained (お) improving/improved

<問3>下線部訳

(1) Today it is the British who look to Japan for the latest ways of manufacturing products and improving quality. (20点)

今日では、品物を製造し、品質を高めていく最新の技術を日本に求めているのはイギリス人の方である。

【採点基準】

*いわゆる「強調構文」ではあるので、上の解答例の他「イギリス人こそ」などの訳でもOK。これが出来ていなければ(-4点)

*look to A for B について: He always looks to me for help. (『ジーニアス』)「彼はいつも私の援助を当てにしている」このような意味がとれていない場合(-5点)

*manufacturing products と improving quality は並列関係で両方とも the latest ways にかかっていく。それが、「品物を生産する新しい方法」とだけしている場合(-3点)

*the latest ways を「最後の方法」(-2点) improving quality を「良くなっている品質」(-2点)

*個々の単語の意味を取り違えている場合、短い文章なので(-2点)

(2) because they feared it would put their own carmakers out of business (20点)

何故ならば、多くの政府は日本の直接投資が自国の自動車メーカーを倒産させてしまうのではないかと恐れているから。

【採点基準】

*they (many governments) と it (Japanese direct investment) が具体的に訳されていない場合は、それぞれ(-4点)

*put A out of business 「倒産させる」(-5点)

(3) British culture was greatly respected and many regarded British English as the universal standard of how the English language should be spoken and written. (30点)

イギリスの文化は大いに称賛され、多くの人々はイギリス英語を、英語の話し方と書き方の全世界的な基準だと考えた。

【採点基準】

*British culture was greatly respected まで(5点)

*many が many people の意味だと理解出来ずに、形容詞だと考え、「多くのイギリス英語」などとしている場合には (-5 点)

*regard A as B の熟語の関係が理解できていない場合 (-5 点)

*universal を「宇宙の」としている場合 (-2 点)

*how のここでの意味がとれていない場合 (-5 点)

*その他 culture / respected などの間違いはそれぞれ (-2 点)

(4) the British developed many modern political ideas including individual freedom, the multi-party political system, and the belief that governments should be responsible to the people for their action. (35 点)

イギリス人は、個人の自由、複数政党制、そして政府はその行動に対して国民に責任を負うべきであるという考え方も含んだ、多くの近代的な政治的思考方を発達させてきた。

【採点基準】

*the British developed many modern political ideas までが (10 点)

*including A, B, and C の関係が出来ていない場合 (-5 点)

*the belief that ... の同格関係が理解できていない場合 (-5 点)

*the British / developed / many modern political ideas / individual freedom / the multi-party political system / responsible / the people / for their action (-2 点)

II

<問 1 > (30 点)

(1) we have so much to do that sleep sometimes seems to be a waste of time. (10 点)

(2) For this reason, we need to know how much sleep is adequate to maintain our health. (20 点)

<問 2 > (30 点)

I think Ken should study law at University Y and then apply to transfer to University X when he is a third year student. First, I think it is a waste for him to spend a whole year studying purely for the following years' entrance exams. He will just be revising old material, and will probably not learn anything new. Second, although Ken says he is not interested in law now, having some knowledge about law will undoubtedly be useful for him in the future, both personally and professionally. That is why I believe Ken should enter University Y now, and transfer to University X in his third year of university.

【採点基準】

この問題を通じて受験生は自分の意見やその理由を明確に述べられるかどうか、段落を論理的に構成できるかどうか、限られた時間内にアイデアを十分に展開させられるかどうか、英語が完璧ではなくても自分の思いをうまく伝えられるかどうか、をみたいと思った。「内容」、「構成」、と「言語力」の三つを特にみながら、30 点満点でそれぞれの解答を総体的に採点した。「内容」については、意見やその理由が十分に説明されて、論理的に展開させられているかどうか、問題に含まれたヒントを超えて独自の内容が書かれているかどうかなどを中心にみた。「構成」については、意見やその理由が明確に書かれているかどうか、必要に応じて discourse markers (first, second, however, on the other hand など) や接続詞が正確になおかつ効果的に使われているかどうか、

導入文、本文、結論があって区別されているかどうかなどを中心にみた。「言語力」については、内容が理解できるかどうか、正確性、高いレベルの言い回しや語彙を使おうとしているか（そしてその場合にどのくらい正しく使っているか）、導入文と本文の言語力の差がどのくらいあるかなどを中心にみた。

【採点講評】

I

<問1>

〔経済学科〕

- ・(エ) from は大部分ができていた。
- ・(ウ) for/to の正答は半分ぐらいの印象。With としたものが目に付いた。
- ・(ア) from の正答は少なく、in や to が目に付いた。
- ・(イ) over/against、(オ) against の正答は数えるほど。
- ・前置詞が求められているのに、前置詞以外の and などを入れたものが散見された。

〔公共マネジメント学科〕

- ・(ア) exclude (from) A 「Aから締め出す」：ほとんどできていない。
- ・(イ) by an Asian power (over/against) a European power 「アジアの（兵）力がヨーロッパの（兵）力を上回ったということで」「ヨーロッパの（兵）力に対抗するアジアの（兵）力によって」：ほとんどできていない。
- ・(ウ) provide A (for/to) B 「BにAを与える」：比較的できていた。
- ・(エ) suffer (from) A 「Aをこうむる」「Aに苦しむ」：ほとんどできていた。
- ・(オ) (against) people 「人々に（対する）」：ほとんどできていない。

<問2>

〔経済学科〕

- ・(う) (え) (お) については、比較的正確率が高かったが、(あ) (い) の区別は受験生にとって難しいようであった。

〔公共マネジメント学科〕

- ・(あ) (following) the Meiji Restoration 「明治維新以降」：大半ができていない。変化を間違えている解答も目立った。
- ・(い) with Nissan, Toyota and Honda (coming up) quickly 「日産、トヨタ、本田に素早く追いつかれた」：あまりできていない。came up と変化させた解答が目立った。
- ・(う) (export) them to other parts of the European Union 「それらをEUの他地域へ輸出している」：ほとんどできていた。
- ・(え) These differences can be (explained) ~ 「これらの差異は～と説明される」：だいたいできていた。
- ・(お) have been steadily (improving/improved) 「確実に改善してきている／確実に改善されてきた」：だいたいできていた。

<問3>

[経済学科]

(1)

○文章構造について

- ・強調構文が見抜けなかったのか、それを意識出来ている解答は非常に少なかった。
- ・前置詞 of の目的語として、**manufacturing products** と **improving quality** という二つの動名詞表現が並んでいることの意味も不十分であった。

○内容理解について

- ・単語(熟語)の理解とも関係してくるが、まずは **the British** を「ドイツ人」と勘違いしたものは別としても、イギリス人ではなく「イギリス」としたものが非常に目についた。さらに、**look to A for B** という熟語は、受験生にはやや難しかったのであろうが、**look up to**(尊敬する)と解釈しているものが多かった。

(2)

○文章構造について

- ・構造自体は単純であるため間違える受験生は少なかった。

○内容理解について

- ・代名詞が何を指しているかを問う問題であったが、**they** についても **it** についても読み取れていない答案が目立った。特に **it** はそれが指しているものが **Japanese direct investment** であることが分かっていても、**investment** の意味がとれなかったため、正解が少なかったとも考えられる。

○単語について

- ・**their own carmakers** の **own** を動詞「所有する」と勘違いしたもの、さらに、**feared** を形容詞の **fair** と誤解し、「公平だった、公正だった」とした解答が意外に多かった。

(3)

○文章構造について

- ・課題文が2つの文から成り立っていることを理解できていないもの
- ・3つの文を並べただけのもの。「イギリス文化は賞賛され、イギリス英語は世界基準とみなされ、英語は話され書かれるべきである」など

○内容理解について

- ・**British English** と **the English language** の区別を明示できていないもの
- ・**many** が主語であることを見抜けず、**regard** を受け身になっているもの
- ・**many** が主語であると見抜いたものの、単に「多くは」として「人々」を明示できていないもの
- ・**how** を「どのように」(仕方・方法)ではなくて、「どれくらい」(程度)と訳したもの

○単語について

- ・**universal** を「宇宙の」「大学の」「共通の」「国際的」などと訳したもの

○訳文について

- ・主語がない、「に」「を」「は」などの助詞が不適切、主述が対応していないなど、そもそも訳文が日本語として成立していないもの
- ・過去形を現在形に訳したもの
- ・原語(言語)、平準(標準)などの誤字

(4)

○文章構造について

- ・ including A, B, and C の関係をとらえきれず、「個人的自由を含む多くの近代的な政治的考え方」と「複数政党制」と「政府は～責任を負うべきであるという考え方」とするものが多数あった。
- ・ 苦し紛れに including や belief を動詞に見立てて訳したものも多かった。

○単語について

- ・ developed を自動詞とし「英国は多くの近代政治の考え方の中で（によって）発展してきた」とするものも多かった。
- ・ individual を industrial や invisible, と取り違えるものも多かった。

[公共マネジメント学科]

(2)

- ・ put A out of business 「倒産させる」：知らない人が多かった。誤訳例「追い出す」「取って代わる」「入れ替わる」など。
- ・ they 「多くの政府」：ほぼ理解していた。
- ・ it 「日本の直接投資」：どこを指しているかは分かっているが、direct investment を訳せていない人が多かった。
- ・ fear を fair と間違えている人が若干いた。
- ・ own ここでは「自国の」：分からない人が若干いた。

(4)

構文が理解できていない人が4割前後いた。Ideas は、freedom, system, belief の三つを include しているが、freedom だけだと考えた訳が多かった。

- ・ the belief that の同格関係は大半の人が理解していた。
- ・ be responsible to 「に責任を負う」：知らない人が多かった。
- ・ for their actions の their を「国民の」と取った解答が多く見られた。
- ・ belief, political の意味を間違えている解答も目立った。

II

<問1>

(1) に関しては全体的に出来は良かった。だが so ~ that をうまく使ったものは少なかった。とくに苦労したと思えたのが waste of time 「時間の無駄」という英語表現がなかなか思いつかなかったようである。time loss、vain、useless などと表現したものも多かった。

また it is no use sleeping 「寝ても無駄である」という解答もあったが、これは減点した。また前半の so much to do の箇所では so much things what we should do、so many thing should to do など英語の基礎力に不安を感じさせられる解答も多かった。

(2) に関しても全体的には出来は良かったが、「どれくらいの睡眠が適切なのかを知る」という箇所の英訳が適切に出来たものが少なかった。know that how long sleep is proper、how many times we have to sleep、how many sleeping is suitable、how we sleep are suitable、how long is spending a time on sleeping などなどの間違いが多い。これらの間違いの原因もおそらく英語の基礎力不足に起因していると考えられる。

<問2>

今回も限られた時間内に受験生が自分の英語力を十分に出せるように問題の中に色々なアイデアやヒントを盛り込んでみた。そのため、受験生が①問題に含まれている英語（文法や綴りなど）を間違えて使った場合、②問題文に含まれている英語以外にあまり自分の言葉やアイデアを使っていない場合、③問題文に含まれている英語とそれ以外の受験生本人が考えて書いた英語の言語力の差が激しかった場合には、厳しく採点した。そして、残念ながらこのような解答が目立ってしまった。

特に気になった解答例をいくつか挙げる。①問題文に law（法律）という英単語が書いてあったが解答の中に綴りを間違えて low（低い）と書いた受験生が多かった。また、問題文に書かれていた“Should I enter University Y and transfer to University X in my third year?”の代名詞や限定詞を変えずに、そのまま“I think I should enter University Y and transfer to University X in my third year”と書いた受験生も多かった。（正しいのは“I think he（若しくは Ken） should enter University Y and transfer to University X in his third year.”）どちらも初歩的なミスであり、また意味が大幅に変わるのもっと注意すべきである。

②解答の多くは導入文と結論で主に構成され、本文（意見を裏付けるための理由を書くべきところ）がほとんど書かれていなかった。まずは、理由を十分に書いて説明していないので内容と構成の面からみて減点した。そして、導入文と結論の書き方がほとんど問題文のままだったので、言語力に関して高い点数をあげられなかった。最後に、多くの場合は導入文と結論を書くのにほぼ同じ表現を使った解答も目立った。結論を書く際、言い換えを使おう。

③導入文と結論はほとんど完璧な英語で書かれているのに対して、本文は間違いが目立ち言いたいことがうまく伝わらない解答もあった。問題文に含まれている言語的ヒントを参考にして解答を書くのは良いけど、解答全体を通して一定の言語力で書かなければ言語力に関して高い点数を得られない。本文を書く際にもっと注意して書くべき。

残念ながら、とてもよくできていると言える解答は少なかった。一回書いたことをチェックせず、一工夫も加えずに、鉛筆を置いてしまったのではないかと、という印象を受けた。時間は残っているはずなので、綴りや文法のミスがないか、理由を十分に書いているかどうか、同じ表現ばかりを使っていないかなど、鉛筆を置いてしまう前にこれらの点をもう一度よく考えて、より良い解答を目指してほしかった。